コーユーレンティア

EVトラックでCO_2削減

首都圏で短距離運用

レンタル大手のコーユーレンティア（東京都港区）および同社グループのコーユーロジックス（千葉県白井市）は2月、EVトラックを導入した。都内のレンタル製品配送・回収を中心に運用し、CO_2排出削減を進める。

導入したのは三菱ふそうトラック・バス（神奈川県川崎市）が製造を手掛ける2トンEVトラック「eCanter」。航続距離は約100キロ。燃料コストは従来のディーゼルと同等程度で、内装は通常のトラックとほぼ共通化されている。

EVトラックは一般的なトラックよりも航続距離が短いため、運用は都内～千葉県白井市または柏市の倉庫間が主軸。建設現場向けの備品運搬などを手掛けている。

導入メリットは環境負荷軽減と静音性、さらに働き方改革だ。レンタルの場合、自社事業におけるCO_2はほとんど発生しないことから、物流分野での削減インパクトは大きいと見る。また、「航続距離を管理することでドライバーの業務時間が短縮され、結果的に働き方改革につながった」（コーユーロジックス運営本部　事業推進グループ長　鈴木勇介氏）。

同社のEVトラック。東京周辺で活躍している

一方で航続距離の短さは、配送管理システムを活用した配送業務効率化を進めて補う。コーユーロジックスでは、まずEVトラック運用のノウハウを吸収し、充電器の整備など設備投資を進めながら、まず2030年までに複数台のEVトラック導入を目指している。